

第8回三重県地域年金事業運営調整会議 議事録

日時 令和2年2月26日（水）14：00～16：00

場所 三重県総合文化センター文化会館棟中会議室

・開会のあいさつ

（須川部長）

日本年金機構中部地域第二部の須川です。宜しく申し上げます。

本日はご多忙の中、三重県地域年金事業運営調整会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

また委員の皆様におかれましては、日頃より公的年金制度の運営並びに日本年金機構の事業運営に関し格段のご理解とご協力を頂き、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

さて、三重県の地域年金展開事業の詳細な事業実績等につきましては、このあと担当よりご報告させていただきますが、私のほうからは現在の公的年金を取り巻く状況、今年度の地域年金展開事業の取り組み内容について少しご説明させていただきます。

はじめに昨年10月に施行されました年金生活者支援給付金の状況について近況をご報告申し上げますと、昨年12月13日に約700万人を超える対象者の皆様に対し無事、第1回の給付金の支払いを行ったところでございます。

関係機関や年金委員の皆様には周知広報にご協力を賜り、重ねて御礼申し上げます。

今後も申請書をご提出いただいた方に対し、順次お支払いを行ってまいります。お近くに未提出の方がいらっしゃいましたら、すみやかなご提出をご助言いただくよう引き続きご協力をお願い申し上げます。

またこの年金生活者支援給付金のほか、今年度は4月の「改正出入国管理法」の施行に伴う外国人労働者の特定技能制度への対応のほか、10月には二十歳到達者にかかる国民年金加入手続きの見直し、また次の4月には大規模法人に対する社会保険・労働保険関係届書の一部電子申請化が予定されているなど、きわめて社会的影響が大きい種々の制度改正が行われています。

このような変化を国民の皆様幅広く確実に伝え、適切に対応していただくために、もちろん私どもも全力を尽くしてまいります。地域や企業における周知広報について、関係機関や年金委員の皆様にご協力をお願いする部分も多

いと考えておりますので何卒よろしくお願いいたします。

続きまして今年度の地域年金展開事業の取り組み内容について説明いたします。

日本年金機構では地域の関係機関や年金委員の皆様のご協力のもと、教育関係機関での年金セミナーや企業・地域における年金制度説明会の拡大に努めているところでございますが、今後も更なる拡大をはかるべく「若手職員を中心とした講師の育成」や「多様な受講者に応じた教材となるよう見直し」を進めるとともに、今後は従来の年金セミナー等のほか「小中学生」への対象拡大や「保護者や教職員」「女性」「特別支援学校の保護者」等をターゲットとした年金制度説明会についても積極的に実施をしていきたいと考えているところでございます。

また、これらの実施にあたりましては地域の関係団体との共同開催などそれぞれの特性に応じた効果的な実施方法を検討し、その実現にむけた働きかけを積極的に行ってまいりたいと考えているところでございます。

また年金委員活動の活性化についても重要な課題のひとつでございます。

具体的な政策については、年金局をはじめ関係機関等のご意見も賜りながら検討を進めているところでございますが、まずは近年減少傾向である年金委員の委嘱拡大の取組、その活動の充実を図っていききたいと考えております。

当面の方針として今後、各地域において委嘱関係団体に対する全国一律の取組を徹底していくほか、年金委員としてのメリットの検討、特に地域や事業者に必要なとされる新たな活動形態等についても検討を行う必要があると考えております。

あわせて定期連絡会、年金委員研修等を軸とした情報共有や機構ホームページ等を活用した情報発信を強化し、年金委員の活動に必要な情報提供の充実を図ってまいります。

今後とも関係機関や年金委員の皆様との連携を密にし、年金制度の普及・啓発・理解の促進に努めてまいりたいと考えておりますので、引き続きのご理解とご協力を宜しくお願い致します。

本日は限られた時間の中ではございますが、皆様方より忌憚のないご意見を頂戴するとともに、引き続き私も日本年金機構の事業運営につきまして、特段のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げ、挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

(運営事務局より本日の出席者のご紹介)

・議事

(運営事務局より議題(1) 令和元年度「地域年金展開事業」取組実績について説明。)

(岩崎委員長)

令和元年度「地域年金展開事業」取組実績について質問・意見を求めます。

(西川委員)

年金セミナーはとても重要な取組であるため、本部の方に学校教育カリキュラムに組込むための取組をお願いしたい。義務教育のなかできちんと指導してほしい。普段生活していくなかで最低限知っておくべきこと、年金を知らない人に対して年金セミナーで周知することで知る機会となるため、働きかけをお願いします。

(須川部長)

関係機関、文部科学省や厚生労働省への働きかけはありますが、今の学校教育の中に組み込むのはなかなか厳しいと聞いております。そういった状況ではありますが学校で年金制度を知ってもらうために年金セミナーを拡充する方法で取組をしております。これについては学校様のご協力あって成り立ちますので教育関係の皆様におかれましてはご協力をお願い致します。

(橋本委員)

社会保険労務士の活動は事業主とのやりとりが主ですが、話を聞いておりますと、社会に出たばかりの新人従業員は年金にまったく関心がない。結婚など人生の節目のタイミングで意識するようであるが、もっと早くから関心を持ってほしい。冊子で渡せるもの、新入社員研修で説明してもらえような資料等があるとよい。年金は年をとってからのものではなく、障害年金など国民のセーフティネットで自身にかかわるものとのアピールをしてほしい。年金セミナーの動画はすごく良い。QRコードですぐにスマホで見れるようにするとよいのでは。関心を高められる。

(小松委員)

学校でのセミナーの取組は行っているが、小中学校での取組はいろいろあってとても難しい。高校では何とか取組できているようである。実は先日父親を亡くし年金の手続をした。とても煩雑な手続きであったが、とても丁寧に教えていただいた。

(小松様ここで退席。)

(須川部長)

橋本様よりお話しいただきました新入社員研修での年金制度の資料、年金セミナー動画の公開につきましては持ち帰って検討させていただきたいと思います。難しい内容もありますができるだけ充実させていきたい。セミナーも受け身的な内容ではなくリスクをどうするのかといった体験型といいますかそういった内容のものも工夫しながら取り組んでいきたい。

(宇陀委員)

高校での取組は成人年齢の引き下げ、主権者教育が中心となっている。既存の教科のなかでは難しいが、実社会につながる生きた学びを行う上で年金というのは社会参画するうえでひとつの切り口になると思います。こういった学びはますます重要になっていくと思います。

(加藤委員)

社会保険委員会連合会という立場でいいますと、事業所として当然加入すべきものは加入し、それをきちんと徴収する、これが一連のしくみ。年金委員の減少については連合会としても増やしていかないといけない。減ったから増やすということではなく、企業のなかで年金委員の役割はとても重要ということで。大企業に比べ労働条件の厳しい中小企業にとって、よりよい労働力確保するにあたり年金委員のスキルがあるとよい。特に年配の従業員に適切なアドバイスが可能。年金の必要性を伝えられる存在は重要。企業と従業員をつなぎとめる、人材を留めることができる、労働力の確保につながるメリットとなるのではない。そういう意味でも年金委員を啓蒙していきたい。

(須川部長)

会社、事業所側としてのご意見にもありましたように、一般の方にも理解していただけるようしっかりと制度周知していきたいと思います。

(谷口委員)

現場の立場から申し上げますと、窓口にくる若い学生などは年金についてまったく無関心である。将来もらえないから手続きしなくていいでしょという声が多い。親からはある程度指示は受けて来ていると思われるが、難しくなるともういいですわと対応してもらえなくなる。年金の大切さを何とか簡単に説明できるようにしてほしい。もうひとつ、外国人の対応が多いなかでわざわざ入らないといけないのかと言われる。外国人の方にも必要性をわかるように説明いただけるとよい。

(内藤委員)

私は協会けんぽの前は金融機関勤務で、それまで年金を知る機会が無かった。たそがれセミナーで初めて年金を知るに至った。私の経験から一般の社会人にはなかなか知る機会が無い。自分の息子に聞いても年金は知らないとかもらえないといった返事が返ってくる。もっと啓蒙してもらいたい。

(須川部長)

年金の周知としては大変厳しい状況で、年金もらえるの？という若い世代の声もきいております。年金セミナーにつきましては実施後にアンケートをとっておりまして、セミナー後はある程度理解できたとの返事をもらっております。今後もっと周知できるよう取り組んでまいります。

国民年金では世代別でみると20代の納付率がもっとも低く、ここをどうやってフォローしていくかが課題です。20歳の取得が職権加入で手帳送付となり少し影響があると思いますが、若年層をどうカバーしていくかを課題として取り組んでまいります。

外国人についてはそもそも無関心で面会にいても会えないというのが現状。会社と会社の間の未加入、空白期間も多く外国人へのアプローチも拡充していく必要があります。本部として明確な取組は決まっていないが具体的な対策をとっていきたい。

(西川委員)

加藤会長のお話でとても良い話が合った。委嘱拡大で文書送付しているようですが、提出のあった事業主の方々を集めて加藤会長または支部長に話をしてもらえると、とても関心を持ってもらえるのでは。

(清水所長)

委嘱拡大については本部も取り組みを強化しております。昨年も勸奨を実施しております。しかし事務所としてはまだ対策不足でもっと取組んでいく余地があるのかなと思います。関係者の方々とご相談しながら取組できればと思っております。制度周知につきましてはセミナー等でまず年金を身近に感じてもらうことが大事ではないかと、チラシを配ったりセミナー動画を流したり、年金を身近に感じてもらえることをまず取り組みたい。

(事務局より議題(2)令和2年度「地域年金展開事業」事業計画(案)について説明。)

(岩崎委員長)

令和2年度「地域年金展開事業」事業計画(案)について質問・意見を求めます。

(谷口委員)

お願いですが、窓口でお客様の年金の手続をするにあたり年金事務所との連携が難しく直ちに情報を得る手段がない。FAX、メールが使えないため来客があってもタイムリーに情報連携ができずに困ることがある。事務所へ電話してもなかなかつながらないので、改善してほしい。

(清水所長)

事務所の受電率が厳しい状況で、改善の努力はしているが時間帯によってはつながりにくい状況であります。各方面の意見も聞きながら改善させていきたい。セキュリティのこともあり情報のやりとりが難しくなっております。最近市町村への可搬型WMが導入されましたので電話をしなくてもご活用いただける方法、わかりやすい案内、電話の本数を減らす工夫など市のご担当者とも相談しながら改善に向けて工夫したいと思っております。

(橋本委員)

外国人については入管が身近な入口になると思う。ここで国民皆年金であるというようなパンフレット、リーフレットを置いてもらう取組がよいのでは。

(須川部長)

三重県内では四日市に入管があり、事務所単位での取組ですがパンフレットを置かせてもらっております。外国人のいるところへパンフレットを置かせてくださいという取組はしているが、話をして周知するところまでは難しいです。

(清水所長)

津の場合はアスト津3階に外国人の窓口があり、外国人向けのチラシを置かせてもらっています。ハローワークでの説明会では、津のハローワークは独自で外国人専用の説明会を行っており、そこに参加させていただくなど協力依頼を行っています。

(西川委員)

委嘱拡大で事業主へ訴えて事業主の理解を頂いたところ対象に取組できると効果があるのではないか。また年金委員になることによるメリットがあるとよいのでは、例えば予約相談での優先的な案内、届出の際に省略できるメリットなど。

(清水所長)

意見として本部へ報告したいと思います。

<議題3> セミナー事業紹介について

(運営事務局よりセミナー事業についてスクリーン及び年金セミナー資料「知っておきたい年金のはなし」により説明。)

(谷口委員)

現場での説明資料として知っておきたい年金のはなしのパンフレットをよく使っている。ほとんどの資料は字が多くてわからないという意見が多い。簡易的なパンフレットで説明できればわかりやすいと思われる。大きな字でわかりやすいもの作っていただけるとありがたいのでお願いしたい。

(清水所長)

今の話ですが、外国人窓口のあるアスト津3階の方々にも字が細かすぎると指摘を頂いている。改善していけるよう意見として賜ります。

・ 閉会のあいさつ

(清水所長)

日本年金機構津年金事務所の清水でございます。

閉会にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

本日はご多忙の中、地域年金事業運営調整会議にご出席いただき、長時間の会議にもかかわらず、熱心にご議論や貴重なご意見を賜りまして、誠にありがとうございます。

いただきましたご意見等につきましては、今後の年金事務所の運営にしっかりと生かしていきたいと考えております。

現在、公的年金制度は、国民生活に不可欠なものとなっています。年金事務所におきましては、地域の皆様に対し、公平公正に年金制度に加入していただき、保険料を納めていただき、お客様の相談に丁寧にお応えしながら、年金をお支払いするといった事業を正確・確実に行っていくことが使命であると考えています。

年金事務所が、事業を安定的に円滑に運営していくためには、地域の皆様の年金制度に対する理解や信頼を深めていくことが重要だと考えており、地域年金展開事業につきましても、工夫や改善をしながら効果的・効率的に行っていくことが必要ではないかと思っていますところでございます。

最後になりますが、今後とも、皆様には、一層のご指導と、ご鞭撻をお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。